

令和3(2021)年度事業報告

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日までの事業概要は次のとおりである。

1. 法人の基本情報について

〔1〕会 員

令和3(2021)年度末の会員数は次のとおりである。

区 分	会 員 数	備 考
個人正会員	1562名	うち海外在住外国人正会員6名
特別正会員	48名	
団体正会員(公益)	67口	
団体正会員	64口	
学生会員	345名	
名誉会員	13名	
合 計	2099名	

〔2〕運営に関する会議を次のとおり開催した。

(1) 第41回通常総会

- 1) 日 時 令和3(2021)年6月9日(水) 13時00分～13時40分
- 2) 場 所 学会事務局(東京都江東区)
- 3) 出席者 931名
- 4) 議 題
 - ア. 令和2(2020)年度決算(案)について
 - イ. 理事および監事の選任について
 - ウ. 顧問および参与の選任について報告 令和2(2020)年度事業報告

(2) 第128回理事会

- 1) 日 時 令和3(2021)年5月19日(水) 16時00分～18時00分
- 2) 場 所 学会WEB会議室
- 3) 出席者 松井会長他理事21名、監事3名、運営幹事2名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 入退会者等の承認
 - イ. 各種表彰の選考
 - ウ. 研究委員会の活動報告と継続申請の承認
 - エ. 特定費用準備資金の積立の承認
 - オ. 理事候補者および監事候補者名簿案の承認

- カ. 第 41 回通常総会の開催、招集、議決権行使および委任の方法の承認
- キ. 議案および議事資料の確認、令和 2（2020）年度決算（案）および事業報告の承認
- ク. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
- ケ. その他

(3) 第 129 回理事会

- 1) 日 時 令和 3（2021）年 6 月 9 日（水）14 時 00 分～14 時 46 分
- 2) 場 所 学会 WEB 会議室
- 3) 出席者 理事 21 名、監事 2 名、事務局長
- 4) 内 容
 - ア. 会長の選定
 - イ. 副会長、常務理事の選定
 - ウ. 運営理事(担当理事)の選定
 - エ. 副会長の会長業務執行に係る職務の代行順序の決定
 - オ. 表彰委員会委員長の委嘱
 - カ. その他

(4) 第 130 回理事会

- 1) 日 時 令和 3（2021）年 7 月 21 日（水）16 時 00 分～17 時 20 分
- 2) 場 所 学会 WEB 会議室
- 3) 出席者 西嶋会長他理事 23 名、監事 3 名、運営幹事 1 名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 2021 年度運営幹事の承認
 - イ. 理事の担当事項変更の承認
 - ウ. 入退会者の承認
 - エ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
 - オ. その他

(5) 第 131 回理事会

- 1) 日 時 令和 4（2022）年 3 月 1 日（火）16 時 00 分～17 時 40 分
- 2) 場 所 学会 WEB 会議室
- 3) 出席者 西嶋会長他理事 21 名、監事 3 名、運営幹事 3 名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 各種表彰の選考
 - イ. 規程類改定の承認
 - ウ. 令和 4（2022）年度事業計画案と予算案の承認
 - エ. 入退会者および特別正会員への移行の承認
 - オ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
 - カ. その他

[3] 運営方法および財政改善に関する検討

- (1) 健全な運営のための業務改革と財政改善を積極的に推進した。
- (2) オンライン・対面型融合活動の推進（リモート化促進）について検討し、年会等の行事で実施した。

2. 事業活動等について

〔1〕公益目的事業

公1 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための年会・シンポジウム・セミナー等の開催

公1-1. 年会

年会を次のとおり開催した。

(1) 第56回日本水環境学会年会

- 1) 開催日 令和4(2022)年3月16日(水)～18日(金)
- 2) 場 所 オンライン開催(富山大学)
- 3) 参加者 1064件
- 4) 一般発表:発表件数534件(口頭372件+ポスター162件)の他、特別講演会、水環境ビジネスガイダンス、会員企業・研究機関等就職説明会、男女共同参画推進セミナー、各賞の発表と表彰が行われた。

公1-2. シンポジウム

シンポジウムを次のとおり開催した。

(1) 第24回日本水環境学会シンポジウム

- 1) 開催日 令和3(2021)年9月14日(火)～15日(水)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 513名
- 4) 19の研究委員会と本部企画によるセッションの他、50周年記念講演会、各賞の発表と表彰が行われた。

公1-3. セミナー

セミナーを学会設立50周年記念事業として次のとおり開催した。

(1) 第30回市民セミナー

- 1) 開催日 令和3(2021)年9月7日(火)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 59名
- 4) テーマ 温暖化対策としてのブルーカーボンの可能性を探る～研究の最新動向と今後の展望～

(2) 第66回日本水環境学会セミナー

- 1) 開催日 令和4(2022)年1月21日(金)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 214名
- 4) テーマ 水環境におけるビッグデータ・AIの活用

公1-4. 産官学協力

水環境懇話会を次のとおり開催した。なお、見学会は開催しなかった。

(1) 第50回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和3(2021)年8月25日(水)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 62名
- 4) テーマ 人口減少時代の水道料金のゆくえと対策を考える

(2) 第 51 回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和 3 (2021) 年 11 月 24 日 (水)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 75 名
- 4) テーマ 小規模水道事業の現状と課題、課題に対する取組み

(3) 第 52 回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和 4 (2022) 年 2 月 24 日 (木)
- 2) 場 所 オンライン開催
- 3) 参加者 40 名
- 4) テーマ 天然ゴムの製造工程から排出される廃水の処理技術の開発とその動向

公 1 - 5. 国際学会

国際会議を次のとおり開催した。

- (1) Water and Environment Technology Conference 2021-online (WET2021-online) を開催した。(一部は、水 ing 株式会社からの出捐事業として実施した。)
 - 1) 開催日 令和 3 (2021) 年 8 月 11 日 (水) ~12 日 (木)
 - 2) 場 所 オンライン開催
 - 3) 参加者 203 名
 - 4) 発表数 133 件

公 1 - 6. 学会設立 50 周年記念行事

学会設立 50 周年を記念する行事の企画を検討した。

公 1 - 7. 支部活動

7 支部がそれぞれ総会、講演会、研究発表会、セミナー、表彰等を実施した。

公 1 - 8. その他

- (1) 関連学協会の講演会等を協賛・後援した。
- (2) 環境工学連合講演会を開催する日本学術会議土木工学・建築学委員会企画分科会環境工学連合小委員会に継続して参画した。
- (3) WET2021-online などの機会を捉えて、国際連携会員の拡大に努めた。

公 2 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための機関誌等の発行

公 2 - 1. 機関誌

- (1) 機関誌「水環境学会誌」を毎月発行し、会員に配布した。
- (2) 機関誌「水環境学会誌」原著論文編およびバックナンバーを科学技術振興機構 (JST) が運営する J-STAGE 上で公開した。
- (3) 「水環境学会誌」およびその前身の「水質汚濁研究」の Vol.1~Vol.30 の PDF 版を収めた DVD-ROM を販売した。

公 2 - 2. JWET

機関誌 “Journal of Water and Environment Technology” を発行し、科学技術振興機構 (JST) が運営する J-STAGE 上で公開した。

公 2 - 3. 水生生物資料頒布

水生生物調査法に関する環境省水・大気環境局/国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう」冊子および下敷を販売した。

公2-4. 学会設立 50 周年記念出版

学会設立 50 周年記念出版である学会誌特集企画の全記事データの公開方法を検討した。

公2-5. その他

- (1) 年会等講演資料集を販売した。
- (2) 当会で編集を行った「水環境の事典」が出版された。

公3 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための助成・表彰等の研究支援

公3-1. 会員助成

水環境国際招聘賞および水環境国際活動賞

水環境国際招聘賞（いであ招聘賞）および水環境国際活動賞（いであ活動賞）を選考し、次の各氏に授賞した。

- (1) 水環境国際招聘賞（JSWE-IDEA Water Environment International Exchange Award）
Tianyin Huang (Southern University of Science and Technology, China)
Sung Kyu Maeng (Sejong University, South Korea)
Yu Yang (Beijing Normal University, China)

（いであ株式会社からの出捐顕彰事業として上記の 3 名の海外在住外国人会員に対し「水環境国際招聘賞」を授与し、第 56 回年会で研究発表を行う参加費用等を助成し表彰した。）

- (2) 水環境国際活動賞（JSWE-IDEA Water Environment International Activity Award）
該当者なし

公3-2. 一般表彰

水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である者、及び地域の水環境保全・創出に貢献した小・中・高校生のグループなどを年会において表彰した。

- (1) 水環境文化賞
 - 1) 水環境文化賞
受賞者 川西自然教室（兵庫県川西市）
対象活動 川西市と周辺地域の水環境保全ならびに自然保護活動の取り組み
 - 2) 水環境文化賞「児童・生徒の部」（みじん子賞）
受賞者 高岡市立中田中学校（富山県高岡市）
対象活動 地域連携によるゲンジボタルの研究・増殖を通じた水辺環境の保全活動
- (2) 7 支部がそれぞれ表彰を実施した。

公3-3. 会員表彰

学会の発展に貢献あるいは、水環境に係る分野において特に優れた功績を認められる個人、あるいは優秀な研究論文を発表した個人等、内規で定められた表彰内容にふさわしい会員を、総会、年会及びシンポジウムの開催時に表彰した。（敬称略・50 音順）

- (1) 学会賞
受賞者 まつい よしひこ
 松井 佳彦（北海道大学大学院工学研究院・教授）
- (2) 学術賞
受賞者 り ぎょくゆう
 李 玉友（東北大学大学院工学研究科・教授）
対象研究 嫌気性消化とアナモックスを用いた排水処理プロセスの開発に関する研究

(3) 論文賞

受賞者 かすが いくろう
春日 郁朗 (東京大学先端科学技術研究センター・准教授)
主要対象論文 Molecular-level characterization of biodegradable organic matter causing microbial regrowth in drinking water by non-target screening using Orbitrap mass spectrometry
掲載誌 *Water Research*, Vol.184, 116130 (2020)

(4) 論文奨励賞 (廣瀬賞)

受賞者 いわさき ゆういち
岩崎 雄一 (産業技術総合研究所・主任研究員)
対象論文 鉦山廃水流入河川における底生動物及び付着藻類群集の流程変化：金属汚染に対するこれらの生物群集の変化は異なるか？
掲載誌 水環境学会誌, Vol.44, pp. 115-124 (2021)

受賞者 さとう ゆうや
佐藤 由也 (産業技術総合研究所・主任研究員)
対象論文 Efficient conversion of organic nitrogenous wastewater to nitrate solution driven by comammox *Nitrospira*
掲載誌 *Water Research*, Vol.197, 117088 (2021)

(5) 技術賞

該当者なし

(6) 技術奨励賞

受賞者 はっとり まさひろ
服部 正寛 (東ソー株式会社)
きさぬき さやか
木佐貫 紗也佳 (東ソー株式会社)
ら ちゅうりよく
羅 中力 (東ソー株式会社)
すずき たかお
鈴木 孝生 (東ソー株式会社)
対象技術 特殊アミンとジチオカルバミン酸による新規ニッケル排水処理技術

(7) 学会創立 50 周年記念 功労賞 (24 名、6 団体)

あきば みちひろ 秋葉 道宏、いまい つよし 今井 剛、おがわ おの 小川 かほる、おの よしろう 小野 芳朗、かの のぶひろ 鹿野 信宏、かわさき なおひと 川崎 直人、
きぐち おさむ 木口 倫、さとう ひろやす 佐藤 弘泰、たかなし ひろかず 高梨 啓和、たけだ いくお 武田 育郎、たなか ひろあき 田中 宏明、たはら さゆり 田原 さゆり、
つねだ さとし 常田 聡、にしむら ふみたけ 西村 文武、はらだ しげき 原田 茂樹、はらだ ふさえ 原田 房枝、はると しんすけ 治多 伸介、ふるまい ひろあき 古米 弘明、
ますだ たかのり 増田 貴則、まつい よしひこ 松井 佳彦、やの とくお 矢野 篤男、やまだ かずひろ 山田 一裕、やまにし ひろゆき 山西 博幸、よねだ みのる 米田 稔

株式会社九州開発エンジニアリング、西部環境調査株式会社、株式会社ダイセル、東レ株式会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社ヤマト

(8) 博士研究奨励賞 (オルガノ賞) (◎：最優秀賞)

なかざわ よしふみ
◎中沢 禎文 (国立保健医療科学院 生活環境研究部)
おおいし わかな
大石 若菜 (東北大学大学院)

Tiffany Joan Del Rosario Sotelo (東京大学)

(オルガノ株式会社からの出捐顕彰事業として、第 24 回シンポジウムで発表した上記の 3 名に「博士研究奨励賞」を授与し、うち 1 名に最優秀賞を授与した。)

(9) 年会優秀発表賞（クリタ賞）および年会優秀発表賞（クリタ賞）受賞者国際会議発表助成

1) 年会優秀発表賞（クリタ賞）

あらかわ	ちさと	
荒川	千智	(北海道大学大学院)
あんどう	ひろき	
安藤	宏紀	(北海道大学大学院)
かわした	りなこ	
河下	莉菜子	(北海道大学大学院)
こむろ	れいた	
小室	黎汰	(東京大学大学院)
すぎえ	よしのり	
杉江	由規	(京都大学大学院)
すぎやま	とおる	
杉山	徹	(北海道大学大学院)
なかじま	めり	
中島	芽梨	(北海道大学大学院)
ひぐち	こうすけ	
樋口	宏介	(北海道大学大学院)
ひらの	まさき	
平野	雅己	(東京大学大学院)
ふじかわ	ゆき	
藤川	由季	(京都大学大学院)
もりもと	えみ	
森本	衣美	(北海道大学大学院)
もりや	あさみ	
森谷	麻未	(京都大学大学院)
やまさき	あやの	
山崎	綾乃	(東北大学大学院)
やました	ゆうき	
山下	優輝	(鹿児島大学大学院)
やまだ	なるみ	
山田	奈瑠実	(鹿児島大学大学院)
やまはら	しんのすけ	
山原	慎之助	(熊本大学大学院)

(公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団からの出捐顕彰事業として、上記の16名に「年会優秀発表賞」を授与した。)

2) 年会優秀発表賞（クリタ賞）受賞者国際会議発表助成

該当者なし

(10) 年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）（◎：最優秀賞）

あくと	たいよう	
阿久戸	太陽	(北海道大学)
あんどう	たいしょう	
安藤	大将	(北海道大学)
いわさき	たもん	
岩崎	多聞	(東京工業高等専門学校)
にいじま	ふたば	
新島	二葉	(都城工業高等専門学校)
そめや	かほ	
染谷	果穂	(東洋大学)
たかまつ	ゆき	
高松	由樹	(富山県立大学)
たかやま	しゅん	
高山	峻	(東北大学)
たけざわ	つばさ	
竹澤	翼	(北里大学)
とみた	あやか	
富田	彩花	(中央大学)
にしむら	ゆり	
西村	有里	(静岡県立大学)
はしこみ	しゅうたろう	
栢込	秀太朗	(京都大学)
Bt Ismail Siti Ezrin		(岐阜大学)
まえだ	りょうた	
前田	稜太	(都城工業高等専門学校)

みのわ 箕輪	ひろき 大生	(金沢大学)
みやもと 宮本	あいり 愛梨	(東北大学)
もがみ 最上	かほ 華帆	(秋田県立大学)
わせ ◎和世	なおき 直輝	(京都大学)

(ライオン株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の17名に「年会学生ポスター発表賞」を授与し、うち1名に最優秀賞を授与した。)

(11) 年間優秀論文賞 (メタウォーター賞)

対象論文 Excess Sludge Reduction Using a High-pressure Jet Device via a Modified Ludzack-Ettinger Process: Performance and Microbial Communities

受賞者 よしの ひろゆき ほそえ あやか ほり ともゆき ほそみ まさあき てらだ あきひこ
吉野 寛之¹、細江 彩華¹、堀 知行²、細見 正明¹、寺田 昭彦¹

(1 東京農工大学、2 産業技術総合研究所)

掲載誌 *Journal of Water and Environment Technology*, Vol.18, No.4, 238-253 (2020)

(メタウォーター株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の論文の著者に2020年「年間優秀論文賞」を授与し、第24回シンポジウムでの受賞者講演会の発表者に参加費等を助成した。)

(12) WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞) および WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞)

1) WET Excellent Paper Award (WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞))

対象論文 A Novel Method to Determine Blower Capacity of Wastewater Treatment Plants for Dry and Wet Weather Conditions

受賞者 Viet Hoang Nguyen¹、Van Tuan Le²、Thi Ha Nguyen³、Xuan Hai Nguyen⁴、
Viet Anh Nguyen⁵、Hidenori Harada⁶、Mitsuharu Terashima¹、Hidenari Yasui¹

(1 The University of Kitakyushu, 2 Hue University, 3 Vietnam National University, 4 Vietnam Environment Administration, 5 Hanoi University, 6 Kyoto University)

2) WET Excellent Presentation Award (WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞))

Made Sandhyana ANGGA (University of Yamanashi)

R.U. GALAGODA (Kanazawa University)

Yalan GAN (The University of Tokyo)

Soyoung LEE (The University of Tokyo)

Ryosuke MATSUO (Hokkaido university)

Yoshifumi NAKAZAWA (National Institute of Public Health)

Thuong Thi NGUYEN (Ritsumeikan University)

Gissela PASCUAL (Tohoku University)

Iftita RAHMATIKA (The University of Tokyo)

Chao RONG (Tohoku University)

Thilomi SAMARAKOON (Saitama University)

Aditya SHARMA (Tsukuba University)

Tiffany Joan SOTELO (The University of Tokyo)

Kanta UCHIDA (Osaka University)

Tomohiro YADAI (University of Miyazaki)

Bei ZHANG (Tokyo Institute of Technology)

Yifan ZHU

(Tohoku University)

(水 ing 株式会社からの出捐顕彰事業として、WET2021-online の参加者のうち、上記 17 名の発表者に WET Excellent Presentation Award を授与した。WET2021-online での発表に対する WET Excellent Paper Award は WET2022-online で授与される。)

(13) 7 支部がそれぞれ表彰を実施した。

公 3-4. IWA 支援・協力

国際活動への助成、IWA 活動への協力などを行った。

- (1) 京都会議記念基金を基にした国際会議参加援助は、該当者がなかった。
- (2) IWA およびその日本国内委員会の活動に参加し、IWA 活動を支援・推進した。
- (3) IWA 団体会員の会費支払手続きを代行した。

公 4 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための研究調査

公 4-1. 受託研究調査の実施

- (1) 公益財団法人日本下水道新技術機構からの受託研究調査を次のとおり実施した。
令和 3 年度 下水中の新型コロナウイルス検出方法研究委託
- (2) 環境省からの受託研究調査を次のとおり実施した。
令和 3 年度 水環境健全性指標普及啓発ツール開発業務

公 4-2. 研究委員会活動

20 研究委員会（嫌気性微生物処理、MS 技術、生物膜法、身近な生活環境、微生物生態と水環境工学、バイオアッセイによる安全性評価、土壌地下水汚染、水中の健康関連微生物、湿地・沿岸域、流域物質動態とノンポイントソース、膜を利用した水処理技術、紫外線を利用した水処理技術、産業排水の処理・回収技術、電気化学的技術、熱帯・亜熱帯地域水環境、農産業に関わる水・バイオマス循環技術、将来の水環境変化に対応した水供給システム、汽水域、地域水環境行政課題、マイクロプラスチック）が、シンポジウムでセッションを企画するなどそれぞれ活動を行った。

公 4-3. 災害調査

日本学術会議と連携して活動する防災減災・災害復興に関する学会ネットワーク「防災学術連携体」に継続して参画した。

公 4-4. COVID-19 タスクフォース活動

下水および水環境中の新型コロナウイルス（COVID-19）の検出・除去・リスク管理に関する国内外の情報収集・発信を目的として 2020 年度設立した日本水環境学会 COVID-19 タスクフォースが引き続き活動を行った。

- 海外の調査報告や関連情報の収集
- 国内における調査研究の連携支援と情報交換プラットフォームの提供
- IWA COVID-19 Taskforce との連携と情報交換
- 関連情報の学会員および産官民ステークホルダーへの情報発信
- 国内研究成果の積極的な海外発信

[2] 収益事業

収 1. 事務室賃貸

対象収益なし。